

鴨川ふるさと会だより

— 第21号 —

鴨川ふるさと会発行 事務局：〒296-8601 千葉県鴨川市横渚1450番地（鴨川市役所企画政策課内） TEL：04-7093-7828

平成30年度ふるさとセミナー 「手つかずの自然広がる 四方木を体感！」を開催

2月2日（土）、四方木地区にある「四方木ベースしたなおい」にて、11名の会員及びそのご家族の参加をいただき、こんにやく作り体験、地域おこし協力隊員の講演、不動滝の散策を通して、四方木地区の今を知り、鴨川市への理解を一層深めました。

四方木地区でこんにやく作りをしている神作利幸さんのご指導のもと、こんにやく芋と苛性ソーダをミキサーにかけるところから始まりました。順番にミキサーで攪拌した後は1時間ほど寝かせるため、その待ち時間を利用して、神作さんからこんにやく作りの手順や四方木について説明がありました。かつて四方木地



地域おこし協力隊：橋詰良子氏講演

区には60世帯ほどの方が住んでいたが現在は30世帯ほどに減ってきていること、高齢化も進み、田んぼなども荒れているところが多くなってきたといった、今の四方木地区の様子についてお話いただきました。参加された方からは、地区に子どもは何人くらいいるか、買い物はどうしているかなど多くの質問が寄せられ、一つ一つ丁寧にお答えいただきました。

その後は、寝かせておいたこんにやく芋を混ぜる作業を行いました。初めのうちは軽い力で混ぜることができすが、だんだんと固まってくるため、最後の方は混ぜるのも一苦労です。2人1組になって、それぞれ50回ずつ、全員で300回ほど混ぜました。最後は、混ぜたこんにやく芋を楕円形の型に入れ、茹でる作業です。隙間があると茹でた時に崩れてしまうため、型の隅までしっかりと力を入れながら詰め、こんにやくに制作者それぞれの印を付け、お湯に入れて、作業は終了しました。

昼食は、四方木で唯一稲作を続けていらつしやる神作さんのお米、四方木の隠れた名産である八頭の煮付け、炭火で焼いたしいたげや地魚など、

地元で採れた食材を使ったくさんの料理に舌鼓を打ちました。

午後は、四方木地区担当の地域おこし協力隊の橋詰良子さんからお話いただきました。橋詰さんは、都内で雑誌編集の仕事しながら、平成28年2月から平成31年2月までの3年間、四方木地区の地域おこし協力隊として活動されてきました。

地域おこし協力隊とは、総務省が実施している事業で、地方公共団体が地域の活性化に意欲のある都市住民を受け入れ、地域活動に取り組みむことで、地域課題の克服とともに、本人の定住につながるというものです。全国には五千人ほどの地域おこし協力隊員がおり、鴨川市では、任期満了を迎えた橋詰さん以外に、現在3人の方が活動されています。

四方木地区の課題は人口減少とそれに伴う住環境・景観の悪化であることから、移住希望の方の窓口となるようなコミュニティの場作りからはじめ、都会ではなかなか体験できない、こんにやく作りや川探検などの楽しめるプログラムを用意し、地元の方と移住希望者をつなげる仕組み作りに取り組みました。

四方木地区の特徴として、地元の方が率先して移住者を受け入れる取組みを行っているため、地元の全面的なバックアップがあり、地域全域を活動場所として使わせてもらえることも大きな魅力であるとおっしゃっていました。

橋詰さんは、今後はちみつ作りを行うため、現在は地元の方の協力の元、試験的にレングやブルーベリーなど、蜂が蜜を採るための蜜源植物を植えているそうです。はちみつ作りを選ばれたのは、植物を植え、手入れをしていくことが少しでも景観の荒廃を止めることへ繋がればという思いからだそうです。

橋詰さんと地元の方の取組みにより、移住を希望される方もいらつしやるそうで、3年間の活動を通して地元の方と移住希望者をつなぐという役割も十分機能し始めたという手ごたえを感じており、今後も四方木の方と協力しながら活動を続けていきたいと話されています。

講演の後は、不動滝の散策を行いました。観瀑台からは、前日に降った雪がまだ残っている滝を見ることができ、参加された皆さんは、雪化粧をした美しい滝を記念に残そうと、写真に収めていました。



「父・母よありがとう 自分らしく生きる」

鴨川ふるさと会
監事 木村絹代

私は旧天津小湊町浜荻で水産加工業を営む父母のもと、四男九女、十二番目の末娘として生まれました。

私が一歳の時、部落中総なめの火事に遭遇し、子どもたちの命を守るのが精いっぱいだったと聞いております。沢山の方々にお世話になりながら、家業を復活させるには数年かかったとのこと。豊かだった家も、そこから貧しさとの戦いが始まり、今で言う従業員、女中さんや丁稚の男たちには暇を取ってもらい、家内業となったようです。

父母と長兄、そして長兄のところへ嫁いでくださった義姉さんには、他人には云い尽せないご苦労があったと思います。

教育は後から付けられないという父母の思いもあり、貧困家庭ではありませんが、私は長狭高校の門をたたくことになり、文化部では弁論部、運動部ではバスケットボール部に所属し、充実した学生生活を送ることができ、卒業後は旧吉田家旅館、現鴨川グラウンドホテルに勤務し、お客様に愛される商法のノウハウを学び、昭和四十三年に結婚、現在はJR三鷹駅前で中華料理店「味の彩華」のおかみとして毎日励んでおります。

吉田家旅館においては、現皇太子浩宮様(当時三歳)を玄関でお迎えするというお役を仰せつかり、大緊張・大興奮したことは、今でも忘れたい思い出となっております。私の最高学歴は長狭高、そして沢山の方との出会いから私なりに教養を身につけさせて頂き、感謝の一言につきる訳ですが、私の持論として「今日行く所がある」「今日、沢山のやるべく用がある」溢れるほどの教育、教養の日々を過ごせていることに誇りを持ち、自分らしさを身につけさせてくださった、おらが房総・山と海に恵まれた鴨川が私は大好きです。

父、母よありがとう！
自分らしく生きる
ふるさとの山々と碧々と広がる海
温かく包む夕陽に光る山と海のおらが房総
真赤に染まった姿は
私を包み見守る母の笑顔に似たぬくもり
微笑と優しさと温もりに溢れ

私はそっと抱かれています
目に見えない温もりと光が山々と海に・・・

それが母との絆
目を閉じて幼き頃を想う
わが子の無事と幸福を！
朝日にそして夕陽に祈る
母が

ふるさと鴨川に居た
私を愛し続けた母
ただ、ただ「ありがとう」
父母、兄弟、姉たちからの愛
産まれてこの方七十四歳になる迄の出会った方々からの愛・絆

ほんとうに本当に
ありがとう
他人の喜びを我が喜びとし、
他人の苦しみを我が苦しみとし、
今日用と今日行くに溢れた毎日を、自分らしく生きる所存です。

最後になりましたが、鴨川ふるさと会の益々のご発展を心からお祈り致します。

千葉ロッテマリーンズ トピックス

2018秋季鴨川キャンプは、平成30年10月31日(水)から11月16日(金)の期間で、井口監督のもと、選手・コーチ・スタッフ約70名で行われました。

キャンプ中は、シート打撃や牽制・盗塁練習などの実践的メニューと、ロングテーパーの打撃練習、ランニングや重いタイヤを使った体力強化メニューが組まれ、実践準備と体力強化の両面を鍛える練習を実施していました。

また、11月11日(日)には野球教室が開催され、市内の少年野球及びソフトボールの7チームから約120名の子供たちが参加し、憧れのプロ野球選手に指導を受け、とても貴重な時間を過ごしました。



野球教室の様子



来季に向けてのチーム編成の期待・話題もあり、連日、多くのマスコミ各社が鴨川キャンプを訪問。インターネット・ラジオ・新聞・テレビなど多くのメディアに鴨川キャンプが掲載・放送され、鴨川のPR・知名度の向上につながりました。

2019シーズンについても、「キャンプ地鴨川」としてマリーンズに声援を送り続けます。鴨川市は千葉ロッテマリーンズと「フレンドシップステイ協定」を結んでいることから、平成31年5月25日(土)に行われる「鴨川市デー」には、マリーンズの選手がユニフォーム右袖に「鴨川市」と掲出して試合に臨みます。

昨年引き続き、球団から市民千人の招待が企画されており、この日は鴨川市民一丸となってマリーンズを応援します。

2018プレナスなでしこリーグ2部【確定】

順位表 / 2018年10月28日

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	伊賀フットボールクラブノース	44	18	14	2	2	29	6	+23
2	ニッパツ横浜F.C.シーガルズ	31	18	9	4	5	32	24	+8
3	ちふれA.S.エルフェン埼玉	30	18	8	6	4	27	21	+6
4	オルカ鴨川F.C.	28	18	8	4	6	26	24	+2
5	A.S.ハリマリアルピオン	25	18	7	4	7	20	19	+1
6	愛媛F.C.レディース	23	18	5	8	5	21	21	0
7	静岡産業大学磐田ボニータ	21	18	4	9	5	20	23	-3
8	スフィード世田谷F.C.	18	18	5	3	10	20	28	-8
9	パニーズ京都S.C.	14	18	3	5	10	11	27	-16
10	岡山湯郷Belle	11	18	2	5	11	16	29	-13



2018シーズンの報告

オルカ鴨川FC

▼なでしこリーグ2部を4位で閉幕 1部昇格ならず

チーム結成5年目を迎えたオルカ鴨川FC。2018シーズンもなでしこリーグ1部昇格を目指して全国のチームと渡りあってきました。

前期は守備の連携ミスや決定力不足が目立ち、開幕から5戦未勝利と苦しい試合が続

きました。しかし、リーグが後半になるにつれ、チームも一体感がでてくるようになり追い上げを見せました。

リーグ最終節まで1部昇格に望みをつなぐ大混戦となりましたが、結果、8勝4分6敗のリーグ4位。わずか勝点3の僅差で1部昇格圏である上位2位までに食い込むことができず、なでしこリーグ1部昇格は来シーズンに持ち越しとなりました。

▼オルカ鴨川B.U. 千葉県女子サッカーリーグ1部昇格

2016年に発足したセカンドチーム「オルカ鴨川B.U.」は今シーズンも「千葉県女子サッカーリーグ2部」に参戦。

B.U.は開幕から他を寄せ付けない圧倒的な強さで首位を走り、クラブ初となる無敗、無失点で完全優勝しました。1部リーグへ昇格するための入替戦では、2016シーズンでの入替戦で0-1という結果で敗れ、悔しい思いをしたチームとのリベンジ試合となりました。2016・2017シーズンの仲間の想いも背負い、

チーム一丸となって挑み、結果、9-0で快勝。入替戦でも無失点で1部昇格を決めました。

▼U-18 県リーグ2部昇格

今シーズンより新たに発足した「オルカ鴨川FC U-18」は、千葉県U-18女子サッカーリーグに新規参入のため、県リーグ3部からのスタート。

今回新たに創設されたこともあり、人数が足りない状況での試合があったりと様々な困難もありましたが、千葉県内の高校8校と全8試合を行い、全勝無失点で3部優勝。2部昇格を果たしました。

▼村岡真実選手

U-20女子ワールドカップ優勝に貢献

フランスで行われた「FIFA U-20女子ワールドカップ」で村岡真実選手がオルカ鴨川FC発足以来初めての日

本代表に選出され、U-20女子W杯の初優勝に貢献しました。

村岡選手はゴール前の競り合いや持ち前のキープ力を武器に全6試合のうち5試合に出場。今後、A代表や東京五輪メンバー選出にも期待がかかっています。また、日本は2011年にA代表が女子W杯優勝。2014年にはU-17女子W杯も優勝しており、

今回U-20女子W杯の優勝により日本は世界初となる女子W杯全世代制覇を果たしました。

▼小嶋星良選手

U-19日本女子代表候補メンバーに選出

昨シーズンからオルカ鴨川FCで活躍している小嶋星良選手がU-19日本女子代表候補のトレーニングキャンプのメンバーに選出されました。

小嶋選手はスピードを生かしたドリブル突破が持ち味。昨シーズンはリーグ戦、カップ戦合わせて5ゴールを決めチームの勝利に貢献しました。小嶋選手は過去にもU-16日本女子代表やU-17日本女子代表にも選出されています。U-19女子日本代表は10月にタイで「AFC U-19女子選手

権」を控えており、オルカ鴨川FCでは昨年の村岡選手に続く日本代表選手として期待されています。

▼山崎新監督のもと、2019シーズン始動

昨年末で退任した百武江梨監督の後任に昨季までなでしこリーグ1部のアルビレックス新潟レディースを率いていた山崎真氏が新監督に就任しました。

オルカ鴨川FCはチーム発足から3代目の監督で初の男性監督。山崎氏の指揮の下、今シーズンは新たに10人のメンバーを加えた新体制で3月21日(木・祝)からスタートする開幕戦に挑み、念願のなでしこリーグ1部昇格を目指します。

引き続き暖かいご声援をお願いいたします。



村岡真実選手 (中央)



平成31年4月 天津小湊小学校開校

天津小学校と小湊小学校が統合し、4月から新たに「天津小湊小学校」が開校することとなり、2月6日(水)に、天津小体育館で校章と校歌のお披露目式がありました。

校歌は、「千葉交響楽団による音楽鑑賞教室」の中で、両校の児童184人がオーケストラの演奏に合わせて歌い、児童の家族や地域の人らに新しい校歌を披露しました。

お披露目を前に、校歌を作詞・作曲した富澤裕さんは、児童らに校歌への思いを述べ、「2つの学校の素晴らしさが合わさった素敵な学校で、校歌を歌ってください。」と語りかけました。

この日のために練習を積んできた児童らが校歌をお披露目。プロの楽団の演奏に合わせて、元気に歌い、爽やかな歌声を響かせました。

■校章のデザインは海と鯛をイメージ
校章は、昨年、市民のみならずや天津小湊地区に愛着のある方を対象として、市内外から広くデザインを募集したところ、74点の応募がありました。天津小湊地区小学校統

合準備委員会で審査を行い、この中から、佐藤由彩さんのデザインを最優秀作品に選定。これを基にデザイン会社による修正を加え、最終デザインを決定しました。

佐藤さんは、「天津小湊といつたらやっばり海！それに真赤な鯛は、天津小湊のシンボルだと思います。2匹の鯛は2つの小学校の友達が仲良くできるように。」とデザインに願いを込めた思いを説明してくれました。

受賞者を含めた校章デザインの入選者については、次のとおりです。

■校章デザイン作品入選者

▽最優秀作品(1点)
・佐藤由彩さん(小湊小2年)

▽優秀作品(4点)
・小林世奈さん(小湊小6年)

・岩瀬友子さん(市内)

・瀧口行雄さん(市内)

・渡邊陽南子さん(大学1年)

情景が歌われる美しい校歌は、校歌作成検討委員会で検討してきた結果、小学校の教科書に曲が掲載されて



天津小湊小学校校章

いる音楽家の富澤裕氏の作詞・作曲により、完成しました。歌詞には天津小湊地区の海と山の情景が歌われ、2校が統合して誕生する新「天津小湊小学校」にふさわしい校歌となっています。

天津小湊小学校校歌

作詞・作曲 富澤 裕

一

耳をすませば
聞こえてくる
あれは海の声
波のささやき
歌いかけてくる
明るく 元氣よく
遊べ 学べ

果てしなく開けゆく
この海のように
笑顔あふれる
明日に向かって

二
君の耳にも
聞こえるだろう
あれは木々の声
山のささやき
語りかけてくる
楽しく のびのびと
歌え 走れ
爽やかな 青空に
その手を広げて
希望あふれる
未来に向かって
素敵な友達と
手を取り合って
大きく伸びる
天津小湊小学校

新しい 地域おこし協力隊員 を委嘱

市では、平成30年11月1日に、清澄地区・四方木地区の活性化を目的に活動する「鴨川地域おこし協力隊」として、姉崎卓弥(あねざきたくや)さん・網代大樹(あじろひろき)さんの2名を新たに委嘱しました。

姉崎さんには清澄地区を、網代さんには四方木地区をそれぞれ担当していただきます。

お二人には、これまでの経験や自身のスキルを活かしながら、両地区の交流人口・定住人口の増加に向けた活動や地域コミュニティの維持発展のための活動等を行っていただいています。



姉崎卓弥氏(中央)、網代大樹氏(右)

新規会員を 募集しています！

本会では、年間を通して新規会員を募集しています。今回、会報発送に併せて、会員募集チラシを同封させていただきました。

会員の皆様のお知り合いの方で、鴨川出身の方や鴨川にゆかりがあり応援したいという方へお配り頂くなど、会員の募集にぜひご協力ください。

掲載記事を募集します！

「鴨川ふるさと会だより」への掲載記事を募集しています。日頃感じていることや、ふるさとへの思い、身の回りの出来事などを掲載してみませんか。今号では、木村絹代さんに「父・母よりありがとう」というテーマで、ご寄稿をいただきました。今後、「鴨川ふるさと会だより」を、会員同士の交流を深める場、報告の場などとして、どうぞお気軽にご利用ください。